

平成 15 年度 (2003 年度) 大学院国際言語文化研究科博士課程 (前期課程) 第二次募集
日本語文化専攻 論述試験問題

下記の問題 (1? 18) から4題を選び、日本語で解答しなさい。
問題の選択方法は志望講座により異なるので、次の指示に従うこと。

- (1) 第 1 志望 : [日本語文化学講座] または [比較日本文化学講座]
第 2 志望 : [比較日本文化学講座] または [日本語文化学講座]

文化系講座共通問題から少なくとも3 題選択すること。残りの 1 題は自由に選択してよい。

- (2) 第 1 志望 : [日本語文化学講座] または [比較日本文化学講座]
第 2 志望 : [応用言語学講座] または [日本語教育学講座] または [現代日本語学講座]
または [日本語教育方法論講座]

文化系講座共通問題から3 題選択すること。残りの 1 題は第 2 志望講座の問題から選ぶこと。

- (3) 第 1 志望 : [応用言語学講座] または [日本語教育学講座] または [現代日本語学講座]
または [日本語教育方法論講座]

第 2 志望 第 1 志望講座以外のいずれかの講座

第 1 志望講座の問題から少なくとも2 題選択すること。
第 2 志望講座の問題から少なくとも1 題選択すること。
残りの 1 題は自由に選択してよい。

- (4) 第 1 志望だけで、第 2 志望の講座がない場合

第 1 志望講座の問題をすべて (3 題) 解答すること。
残りの 1 題は自由に選択してよい。

【文化系講座共通問題】

1. 俳人松尾芭蕉の句に

古池や蛙 (かはず) 飛びこむ水の音

がある。この音に関連して、静と動について考えるところを述べよ。

2. 文芸の伝統の中で英雄はどのように表現されて来たか、具体例を挙げて論ぜよ。

3. 基礎的な学習法の一つに「手本の模倣」があるが、その際、効果をあげるために学習者が注意すべきことは何か。ポイントを少なくとも三つ以上挙げてその理由をなるべく具体的に説明せよ。

4. 次の文章は、明治時代に中国清朝政府が初めて日本に派遣した公使団について、現代のある中国人研究者が述べたものである。

他国のことを研究するには、まず異文化理解という大きな課題を解決しなければならない。異文化理解の面では、自国の伝統文化の教養が深ければ深いほど、異文化に直面した時の衝撃も往々にして大きいものである。初代の駐日公使団の人々もそうであった。彼らはどうしても自らの伝統文化を借りて、異文化を認識しようとしたのである。(中略)異文化に遭遇する時、彼らに現れた反発は、自文化に対する自負から来るものが多い。異文化に触れる機会が増えるにしたがって、客観的な判断ができ、異文化のよい面も見えるようになる。」

以上のような異文化理解のプロセスについて、自身の立場から、具体的な例(自身の体験なども含む)を挙げて、考えるところを述べよ。

5. 文学を読むとき受容者としての読者の役割が重要と思われるが、外国文学を読むとき異なった精神文化で育った読者は、はたして作者が意図するところを正確に読み取れるのか、あるいは「正確な意図」は初めから相対的で、そのように理解する必要性がないのか、考えるところを述べよ。

6. 次の文章はある文学者の言葉である。これについてあなたの考えを述べよ。

久松真一の『無神論』を読んでも、イギリス生まれのメソジストの牧師で、アメリカ、イギリスの著名な大学の教授を何度も勤めたジョン・ヒックの『宗教のブルーリズム』を読んでも、またわが佐伯彰一の『俗世俗化の時代と文学』を読んでも、仏教の側に立つものにも、キリスト教の側に立つものにも、現代は無信仰の時代たらざるを得ないことが、勁い(つよい)思弁、広範な観察、反省、文学的実感をもとに、それぞれの程度で説得的に述べられているのが見られる。宗教、信仰という点では、現代は無の時代、多数並存の時代と考えねばならないという点で一致するものがそれらにはあり、一つの時代の性格づけとして無意味ではないとみなしていい。」

【応用言語学講座の問題】

7. 情報を伝達する上で語順がどのような役割を果たしているかについて、母語を例にあげながら論述せよ。
8. 「すべての発話は現実の事態を切り取った客観的な部分と話し手の立場を表す主観的な部分とに弁別し得る」という考え方に対し、日本語とそれ以外のもう一つの言語からの具体例を援用して、批判的に論ぜよ。
9. 下記の文を読み、設問に日本語で解答せよ。

One abstract feature of human language which is commonly observed cross-linguistically is hierarchical organization. Although words occur serially, our representations of sentences consist of phrases organized into hierarchical relationships, rather than flat, structureless, strings of words. This suggests an interesting learning problem: given serially ordered strings of words as input, how does hierarchical phrase structure arise in learners' representations? Phrase structure refers to the groupings of categories of words into constituents, which may then themselves enter into new constituents, thereby generating hierarchically organized groupings of elements. For example, the words in the sentence "*The monkey sipped the champagne*" fall into particular groupings: (*The monkey*) (*sipped (the champagne)*). It would be extremely unnatural to group those words as: (*The*) (*monkey sipped the*) (*champagne*). The correct groupings reflect the phrase structure of English.

Phrases are marked by dependencies: a determiner such as *the* requires a noun (forming a noun phrase), and a transitive verb requires an object noun phrase (forming a verb phrase). Phrases are also distributionally highlighted because the words that make up phrases move together within and across sentences. Phrases then interact to generate hierarchical structure. For example, the link between *monkey* and *champagne* in the example sentence above is extremely indirect. *Monkey*, as part of the subject noun phrase, is related to the verb phrase, which in turn contains the noun phrase which contains *champagne*. Other links are far more direct; for example, *monkey* is tightly linked to the determiner *the*. These nonuniform links carry the hierarchical structure of the sentence.

While phrase structure is among the hallmarks of natural languages, it is of interest to note that hierarchical organization is not unique to language. Lashley (1951) observed that hierarchical organization characterizes an enormous variety of behaviors: "the coordination of leg movements in insects, the song of birds ... and the carpenter sawing a board present a problem of sequences of action which cannot be explained in terms of successions of external stimuli" (p. 113). Hierarchical structure may be present across domains because systems which are highly organized are more learnable, and easier to produce and process, than systems which are not -- as long as the system of organization is consistent with the user's cognitive structure. Such considerations suggest that the way that phrase structure works may facilitate its acquisition by language learners.

1) 言語における hierarchical structure とは、どのようなものであるか。

2) hierarchical structure と習得可能性とは、どのように関連づけられるか。

【日本語教育学講座の問題】

10. 外国語教育における言語学の役割について自らの考えを述べよ。
11. 日本語の授業で「今日は休ませていただきます」という表現を教えることになった。
「今日は休みます」、「今日は休んでもよろしいでしょうか」などの類義表現と比較しながら、その使い方を文法的、語用論的に説明せよ。
12. Focus on Forms, Focus on Meaning, Focus on Formのそれぞれについて、確立した背景と教授法の具体例を述べよ。

【現代日本語学講座の問題】

13. 言語研究の何らかの「理論」を一つ取り上げ、その理論の基本的な考え方（言語観、研究の対象、研究の目標、研究の方法など）を説明せよ。
14. 日本語の条件文が単純に真理関数的な $p \rightarrow q$ ではないことを例を挙げて示せ。そして、条件文の意味を論理的に定式化するためには、どのような道具立てが必要となるかを述べよ。
15. 日本語学習者は、「きょういく」「びょうき」などの語をそれぞれ「きょういく」「びょうき」のように発音することがある。このような発音上の違いを音声学的に説明し、どのように発音指導をすればよいか、その方策について述べよ。

【日本語教育方法論講座の問題】

16. 次の会話で不自然と思われる点を広い観点から指摘せよ。その不自然さについて日本語教育の観点から考えるところを述べよ。

状況：すずきさんが ブラウンさんの うちに でんわを しました。すずきさんは ブラウンさんの ともだちです。

すずき：もしもし、すずきですが、ブラウンさんのおたくですか。

ブラウン：あ、すずきさん、こんばんは。

すずき：ブラウンさん、らいしゅうの どようびの ばん、わたしの うちで パーティーを します。わたしの たんじょうびの パーティーです。おくさんと いっしょに きませんか。

ブラウン：どうも ありがとうございます。よろこんで いきます。

すずき：では、どようびに。

ブラウン：おでんわ どうも ありがとうございました。

(Japanese for Busy People (1984) Kodansha International. 第26課より抜粋)

17. 日本語教育におけるインターネットの利点はなにか述べよ。
18. 中級日本語学習者に対して会話授業を行い、その到達度試験 (achievement test) を行いたい。その方法と評価の観点および留意すべきことらについて述べよ。また、熟達度試験 (proficiency test) との違いについても記述せよ。